

建築ってなんだろう?

居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市…という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。 建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

ムサビ建築学科

住宅から都市、アートまで 人の営みを建築の視点から考えます

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特徴を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎を学び、工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を統合するものとして建築デザインを学びます。多様なスタジオでは建築、インテリア、ランドスケープそしてアートまで、興味を深めることができます。

建築学科で学べる領域

私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではありません。人がその一生をかけて体験するすべての 環境が、学びの対象になります。

- ■建築デザイン ■都市デザイン ■ランドスケープデザイン
- ■住宅設計 ■空間デザイン ■建築理論 ■構造デザイン
- ■インテリアデザイン ■コミュニティデザイン ■環境計画
- ■ワークショップ ■環境造形 ■インスタレーション

カリキュラムの特徴

「設計計画」を軸に4年間学びます

教育の大きな軸は、4年間必修の「設計計画」。

「設計 = design」と「計画 = planning」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

スタジオ制

3・4年次の学びは個性を伸ばし自分の関心と興味を深めます

3年次以降の設計演習(設計計画Ⅲ・IV)とゼミ(卒業論文・卒業制作指導)は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。 共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、 社会へと目を向けていく場にもなります。4年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。

造形の各分野を広く学ぶ

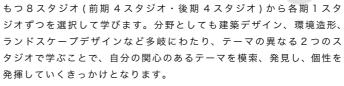
1年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始 まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザイン に触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴 史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1年次から自由に選択 できます。建築学科が開設する科目では前期には建築設計基礎、図学、 建築設計表現により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期か らは、4年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習) が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインな ど工学的内容の授業も1年次から始まります。工学部建築学科のカリ キュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1年を 通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。

前期・後期の終わりには外部講評者を招き、1年次から4年次までの優秀 作品を一堂に会して発表・講評する「バーティカルレビュー」を行います。



専門に向けて基礎を学ぶ

2年次の建築設計演習「設計計画Ⅱ」では、住宅や公共的な機能をもつ 建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自 然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多 面的に深く考えることを目指します。2年間で建築デザインの基礎、表 現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。講義科目では、多 様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料学・実験、 計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通し て、ひとつの建築ができあがるまでに必要とされる知識をしっかりと学 びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、 生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に 接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形 という視点が重要であると考え、2年次から建築計画など学科独自の講 義が始まります。



3年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマを

スタジオで深く学ぶ

講義科目では2年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計 画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、 さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザインなど、領域 を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することが できます。



スタジオから社会へ

4年次には1年間を通して1つのスタジオに所属します。スタジオで の時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来へ の旅立ちの第一歩となります。「設計計画 IV」では空間やものづくりに 関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレー ションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題 されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来 どのように建築と関わっていくかを考えます。

卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間 たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自 身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積 した思考やデザインの力を展開し、4年間の集大成となる表現として卒 業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会 などの活動も行なっています。



[前期] 建築設計基礎 建築設計表現



[前期] 設計計画Ⅱ-1



[前期] 設計計画Ⅲ-1 高橋スタジオ 菊地スタジオ 持田スタジオ 小松スタジオ



「前期1 設計計画Ⅳ 鈴木スタジオ 高橋スタジオ 布施スタジオ 小西スタジオ 菊地スタジオ 持田スタジオ 長谷川スタジオ 小松スタジオ



「後期] 設計計画 1-1 設計計画 I-2



「後期1 設計計画 II-2



[後期] 設計計画Ⅲ-2 鈴木スタジオ 布施スタジオ 小西スタジオ 長谷川スタジオ



「後期] 卒業制作 鈴木スタジオ 高橋スタジオ 布施スタジオ 小西スタジオ 菊地スタジオ 持田スタジオ 長谷川スタジオ 小松スタジオ

演習系科目 造形総合・彫刻

告形総合・絵画 建築設計基礎 図学

建築設計表現

設計計画 I-1 設計計画 I-2

講義系科目 [建築の計画・技術を学ぶ]

構造デザイン 構造力学基礎 基礎数学

演習系科目

設計計画 || - 1 設計計画Ⅱ-2

講義系科目

[建築の意匠・理論を学ぶ]

文化総合・日本建築史 文化総合・西洋建築史 文化総合・近代建築論 [建築の計画・技術を学ぶ]

建築計画/計画原論/建築構法 構造力学 / 建築材料学・実験 [造形・環境を学ぶ]

造形演習 / 写真表現

演習系科目 設計計画 Ⅲ - 1 設計計画Ⅲ-2

講義系科目 [建築の意匠・理論を学ぶ] 建築意匠/建築概論 [建築の計画・技術を学ぶ]

建築施工/建築法規/建築設備・実験

[造形・環境を学ぶ]

都市デザイン/環境計画/基礎造形 ランドスケープデザイン概論

演習系科目

設計計画IV 卒業制作

講義系科目

[造形・環境を学ぶ]

ランドスケープデザイン近代史

庭園史

設計計画 I – 2

短期課題 200㎡の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自ら

のデザインで実践するためのものである。 敷地・条件等:敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。

住宅の規模は 200m³。平面・断面等の形状は自由に想定。 ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦とする。

図面:A3 用紙 2 枚以上に下記の内容をレイアウト。表現方法は各自設定。

- ・配置図 S=1/100 1 階平面図を兼ねる
- ・各階平面図 S=1/100
- ・立面図・断面図 S=1/100 各1面以上
- ・その他設計の説明に必要な図(スケッチ、ダイアグラム等)、設計趣旨 模型:プレゼンテーション模型。材料及び表現方法は各自設定。

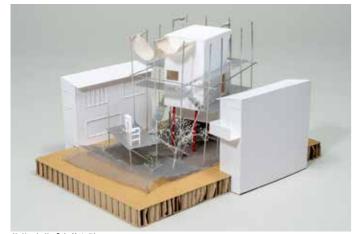
スケールは S=1/50



小紫 龍志「ずらす」



鈴木 碧恋「岐路に建つ」



藤井 杏莉「交差と弛み」



安達 愛唯「天日の夢路を辿る」



鴨下 莉子「廊下の光景」



浅見 太一「木立が見える家」

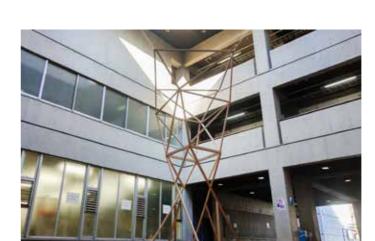
自立する屋外空間

武蔵野美術大学鷹の台キャンパス内に、角材 (30mm×40mm×3000mm) による架構で、「自立する屋外空間」を原寸で作成する課題である。 「自立する」とは、地面(階段、スロープを含む)からそのものだけで 立ち上がり、支えられていない状態を意味する。したがって、上から吊っ たり、壁などにもたれかけたりすることはできない。 原寸での制作はグループで行う。

授業プロセス

- 1.場所の決定
- 2. 架構の決定

- 3.架構の制作





大村 真生・鈴木 碧恋・山賀 紬生・太田 圭瞳・高橋 隆太・寺嶋 莉子 「テンポラリーな溜まり場」

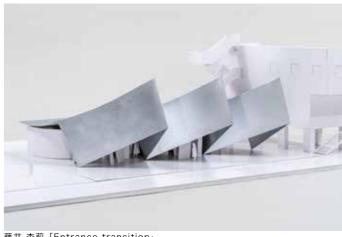


池亀 妃華・小紫 龍志・ハク ウトウ・内山 陽太・五味 奈乃穂・吉田 衣来「つなぐ」

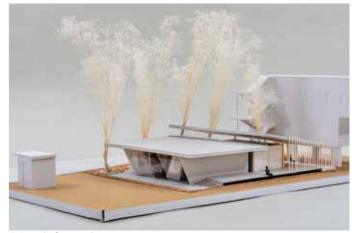
道沿いの展示空間

武蔵野美術大学鷹の台キャンパスを二分する新しくできた道路(小平3・3・ 3号線)に面する13号館横の駐輪場に、ギャラリーを計画する課題である。 このギャラリーは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、 道路を通学路に使う学童などが立ち寄れる開かれた性格を持つものとする。 また、このギャラリーは「境界」を意識した計画とすること。「境界」とは、 関係性や繋がりの間に存在する。ここでは大学と地域、来訪者と学生、外 部と内部、作品と鑑賞者などなど、様々な関係性が考えられる。そのよう な関係性のデザインから生まれるギャラリーを設計しなさい。

- 1. キャンパス外からの来訪者も迎えるギャラリーの計画。
- 2.展示用空間(室内)は100㎡程度とし、外部空間も提案すること。
- 3. 展示物はある期間ごとに変わることを前提とする。
- 4.「境界」の意図を明確にし、図面には道路との位置関係を示すこと。
- 5. 敷地内の樹木は伐採しないこと。



藤井 杏莉「Entrance transition」



岩永 小春「雲聚画廊」



石橋 尚子「憩い」

玉川上水沿いの住宅

玉川上水沿いの敷地に住宅を計画・設計しなさい。周辺は緑多い静かな 環境で、戸建住宅や団地のほか、こもれびの足湯(廃熱利用の温浴施設)、 CAZE CAFE (障害者支援施設・カフェ) などが近接する。

敷地が南面する玉川上水沿いの遊歩道にはさまざまな人々が行き交い 憩っている。家族のプライバシーを守りつつ、ここでしかできない暮ら し方を自由に想像し、周辺の自然環境・社会環境と良い関係性をつくる 住宅を設計しなさい。

タイトル (テーマとなるキーワード) を決めること。

設計上の留意点

- ・上水沿いの景観・方位・季節の変化・日射採光通風・樹木
- ・プライバシーと外に開くこと・構成に合う構造形式



杉山 峻涼「alcove house」



小河原 奏也「本の家」



吉村 優里「くさる家」

第二課題

小規模集合住居

都心エリア駅近の利便性高い場所に、延床面積 400㎡の集合住居を計 画・設計しなさい。集合住居の形式は、共同住宅・シェアハウス(共 用空間があるもの)または長屋(共用空間がないもの)どちらも可と するが、「コモン」についての考えを各自何らか表現しなさい。 カフェやオフィス、集会場など、有用と考える施設を併設しても良い。 タイトル (テーマとなるキーワード) を決めること。

設計上の留意点

- ・ユニットプランとその組み合せ方(構成の型)
- · 日射採光通風
- ・周辺環境との関係性
- ・プライベート・コモン・パブリック (他者との関係性)
- ・構成に合った構造形式





星野 友佳「小規模集合住宅」



杉山 峻涼「YOSUGA APARTMENT」

2年次・後期 設計計画Ⅱ-2

第一課題

木造の駅舎 一木造軸組架構から考える

高尾登山鉄道の清滝駅は、高尾山へ向かうケーブルカーの乗り口である。 京王電鉄の高尾山口駅を出てしばらく歩くとここに着く。

高尾山は年間の登山者数が260万人を超え、世界一の登山者数を誇る 山である。低山ながら多様な植生などに恵まれ、都民の憩いの場となっ ている。現在、三角屋根の清滝駅がある。そこを敷地と設定し、新しい 清滝駅を提案しなさい。また駅前広場も設計するものとする。

条件

規模:建築面積は現状程度

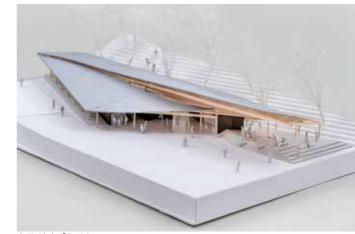
構造形式:木造軸組で、基本平屋と一部2階を設けてもかまわない。 駅舎機能:切符売場、改札、待合、ホーム、トイレ、事務室ほか。

ホームは同位置とし、横にあるリフトの駅舎は課題の対象とはしない。 +α機能:高尾山でのアクティビティと連動可能な施設を複合させる。 用途は各自設定。半屋外空間は提案可能だが、必ず屋内空間も組み込むこと。





尾関 慧一「新清滝駅」



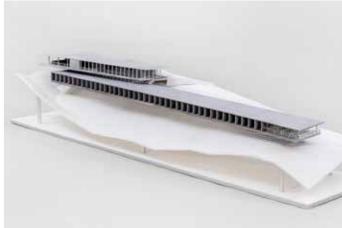
山田 潦真「ねじれ」

新たな世代のための宿泊研修施設

場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿 泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およ びそれに付随する施設が設計された。近年老朽化を理由に一部が取り壊 され、原設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大 部分が姿を消し、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっ ている。この施設ではさまざまなタイプの共同生活を想定した建物があ り、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し 理解を深めることのできる空間となっている。

今回の課題は、指定された範囲内に下記の機能をもつ建物あるいは建物 群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、 自分の計画にあった敷地を想定し完成させること。

1.40 名が宿泊できること。2. 研究発表などができる集会室。3. サーク ルの合宿を具体的に想定する。4. 自炊設備、洗濯、共同の浴室。5. 屋外 BBQスペース、それに必要な設備等。



飯島 裕也「Sanctuary of the Earth」



山田 遼真「along the slope」

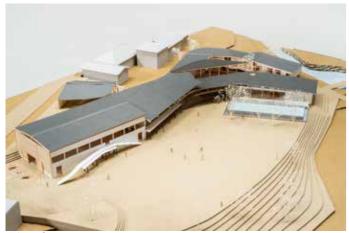


市川 由貴「柱がつくるプロムナード

持田スタジオ

学びと仕事の共同体

10 年前に少子化によって廃校となった小学校跡地を敷地として、自然豊かな中山間地に移住や二拠点居住をしてきた子供たちと地元住民のための小学校、大人たちのコワーキングスペース、地域コミュニティのためのホールやカフェの3つの機能が複合した建築(群)を設計する。敷地となる旧五常小学校は、先人が四賀地域のなかでも特に環境的に良い場所を選んで計画していたことが伺える。山間地の里山の風景のなかで、蛇行する会田川がつくった南側に開けた地形と、雑木林の裏山があり、空、光、風、水、地形と豊かな関係が存在する環境である。この環境を積極的に選んで住まう人々が働く場所やその価値を共有する共同体は、地域とどのような関係で接続することができるだろうか。特徴的な地形や内陸性の気候、文化、歴史などのリサーチから着想し想像力を発揮した建築デザイン、環境デザイン、地域デザインの重奏的な提案を期待する。



広瀬 了「大きな木の下で、」



吉川 布記「大きな屋根の下で。」



奥田 涼太郎「継ぎ接ぎの市井」

高橋スタジオ

都市の環境単位 - 武蔵新城

都心では、巨大再開発によって、既存の周辺と不連続な環境単位が出現し続けている。一方で、界隈性をもちコンテクストが豊かなエリアには、その自然発生的で時間をへた資源が再評価されながら、ところどころに課題を抱える環境単位も存在し続けている。

対象エリアの中で、ひとつの建築的実践によって周辺との関係性が再構築され、あらたな風景や人の行為が生まれるような場所に、建築を構想し設計しなさい。

対象エリアは武蔵新城。JR 南武線 武蔵小杉と武蔵溝の口の間に位置し、 利便性と生活環境の良さから若年層住民が多い。近年、若手オーナー・ 建築家やデザイナーが、街のあらたな動きを生み出している。「パブリッ ク性の高い用途(内容は自由)+住居(単身、家族、シェア、SOHO、 ゲストハウス)」を各自で設定する。規模は敷地の法的与件内で実勢を 把握しながら適切に計画する。敷地内で完結せず、周辺のコンテクスト に対する積極的介入を必須とする。



田島 蛍「家と街の間」



姶良 壮志「aleatory architecture」



恩田 凜太郎「loose-leaf system」

小西スタジオ

集積する構造によって複合施設を設計する

空間のコンポジションを秩序ある構造をもってどのようにコンストラクションするか、を考える。建築と構造のバランスに思考の重点を置き、全体を包括できる秩序を持った構造デザインを発見することで、建築デザインや計画の質がより高まることを求める。

再開発の進む、渋谷・神宮前に、商業施設+宿泊施設の複合施設を提案 しなさい。

現在渋谷は大規模な「再開発プロジェクト」が行われている。駅周辺の 超高層建築群では回遊性のある歩ける街への仕掛けや、観光施設が計画 され、益々多くの人が集まる場所として、様々な価値観や文化の融合が 進む個性的なエリアとして、大きく変貌を遂げようとしている。

敷地は、表参道から徒歩5分、渋谷駅から10分の立地である。渋谷から表参道を繋ぐ動線をより活性化させるような設計提案を求める。



鈴木 利悠「shibuya walk」



宮地 凌央「反復のモニュメント」



大塚 歩「渋谷 flexible」

菊地スタジス

神宮前に作るストリートカルチャーの郷土資料館

この界隈は、ストリートカルチャーの重要な発信拠点としていつの時代も重要な役目を果たしてきた。現在は、渋谷、表参道、原宿、神宮前、竹下通り、明治通り、キャットストリートと広範囲にわたって町同士が接続し、町としても新陳代謝を繰り返しつつ発展してきている。そして、2020年の東京オリンピックに合せて新国立競技場が千駄ヶ谷にできることを契機に人の流れは大きく変わるうとしている。

外苑前駅、千駄ヶ谷駅、信濃町駅だけではスタジアムの人の流れを裁き きれないだけでなく、暗渠である隠田川の上を走るキャットストリート に沿って人が大きく移動してくることが考えられる。そのとき、今まで それほどポテンシャルを持っていなかったキャットストリートのエンド であるこの敷地がスタジアムと原宿側を繋ぐ重要な拠点として生まれ変 わるだろう。そこでこの敷地を都市的文脈をふまえつつ、過去と未来を 繋げるストリートカルチャーを扱った郷土資料館を提案してほしい。



阿部 朔太 「ストリートの擁壁」



]妻 貴徳「ストリート性の介入」



大西 悠希「都市をつなげる資料館」

給木スタジオ

共生がつくるかたち ーアフターコロナのワーケーション / 二拠点居住

新しい働き方と暮らし方ワーケーション、二拠点居住を前提とした住宅を設 計しなさい。クライアントの暮らし方を想定し、工房店舗付きの住宅や、サ ブスク型のシェアハウス、半農半Xの民家など、必要なプログラムを各自 考えること。敷地は長野県大町市の山中にある古民家の敷地、麓の盆地に位 置する民宿の敷地の二箇所から、プログラムの提案内容に合わせて選ぶ。選 んだ敷地の周辺の資源や生き物を発見し、それらと共生する新しい建築のか たちを提案しなさい。リノベーションでも新築でもかまわない。雨水を溜め る屋根、周辺の土で作られた壁、野生動物の水飲み場のある庭。ここでの「建 築」とは庭、畑、地形、柵、塀など、広義である。また、ここでの「かたち」 とは幾何学的な形だけでなく、素材や建築の捉え方を含んでいる。敷地に実 際に行けないからこそ湧き出す想像力で、新しい暮らし方を想起させるよう な、建築のかたちの提案を期待する。

布施スタジオ

敷地選択型住宅プロジェクトー住宅+aの新しい可能性を提案する

敷地選択型の住宅 + α のプロジェクトである。自分が事業主となり、土 地を選定して住宅 + α を設計しなさい。事業主である自分の自邸 + α でもよいし、クライアントを設定した住宅+αでもよい。決められた敷 地ではなく、計画する建築に最適な敷地選定から参画するプロジェクト だから出来る住宅 + αを設計しなさい。自ら設定した敷地と建築的テー マに基づいて住宅 + αの用途を併設して出来る住宅の新しい可能性を 提案すること。



恒谷 京伽「巡り、つづく」





小林 優希「半住半 x」



吉田 真「蒐集家」



吉川 布記「ぬけみち三角」



姶良 壮志「内包する木箱」

長谷川スタジオ

屋台村としての公園 一新しい公共空間のかたちを探る

商業空間としての広場を考える。商業空間といっても物販ではなくて飲食で ある。また恒久的施設を公園内に置くのではなく、屋台が自由自在に出入り する「パブリックスペースとしての商業空間」を提案すること。もともと広 場の多くは「市」から始まり、それが都市の形成につながっていったものも 多くある。いわば、見ず知らずの人々が集まり、場所を共有し、情報を交換し、 お互いの存在を認識する、都市の元型としての広場である。24 時間空いて いて、誰でも訪れることができる。昼と夜では違う屋台が出入りするだろう。 さまざまに姿を変えることができるのがオープンスペースの醍醐味である。 敷地は両サイドを線路に挟まれ、真ん中を神田川が流れているとても動きの ある場所である。大雨が降れば川は増水する。都市の動脈としての線路、電 車からの眺め、都市の中で野生を秘めた川の存在、それらを十分に活かした 画期ある場所を提案すること。昼と夜、夏と冬、晴れた日と雨の日、動き続 ける風景の中で如何様にも対応できる新しい公共空間のかたちを探ること がこの課題の目的である。







土屋スタジオ

東京散歩「場所のもつ記憶と力」

「場」とは多様な解釈を生むが、それぞれが独自のアプローチによって 交差するところを「場」と捉え、そこから新たなる表現を創造する。 大都市東京は他に類を見ない程複雑で、流動的且つ個性的な都市であ る。この不思議な構造をもつ東京を、縄文地図を持ち、垂直的な時間軸 と連続しながら散策・考察することで、見慣れたはずの東京の相貌が、 また別な視点で捉えられるのではないか。我々の足元には様々な神話的 時間が流れている。遠い過去の記憶と現在を一つに結びつけることも創 造的冒険である。



金丸 和樹「空の間」





湯浅 青空「虚実(うつろみ)」

持田スタジオ

建築がつくる環境とは

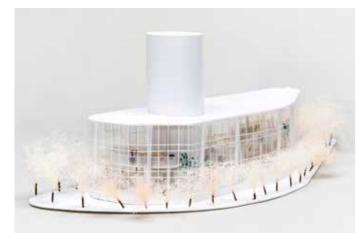
私達は自らが暮らす環境を改めて意識せざるを得ない時代の中にいる。コロ ナ禍は改めて自分たちが過ごす「場所」の意味を問い直す機会になった。外 出が制限されることで、自分が過ごす場所への解像度が上がったこと、一方 でデジタル技術によって場所を選ばずに過ごす可能性が向上したこと。この ことによって、都市の中で、オフィス、教室といった機能で定義された均質 なハコの中で過ごすことの価値が大きく揺らいでいる。このような状況の中 では、均質な環境を前提とした建築ではなく、積極的に環境をつくるための 建築を考えることが重要である。建築の中で利用者が思い思いに「環境を選 び取る」ことが新たな価値となるだろう。また、そのような価値観を持ちな がら思い思いに過ごすことのできる新しい集まり方が都市の中では重要に なるのではないか。今回の課題では、都市の中で、人々が動物のように自分 達にとって快適な場を選び、共に過ごすことのできる複合的な場を生み出す 建築を提案することを目指したい。



ヴィンセント 涼美「今日はあそこ行こう、」



久代 望貴「CYCLE PLACE HIGASHIYAMATO」



亀岡 利衣「雑踏と静寂の共存」

鈴木スタジオ

地域特有の魅力をひきだすしかけ

ある地域の、歴史的文化的な資源・町並み (建築群)・地域活動等の良さを みつけ、その価値や機能を維持するための課題や問題点を明らかとし、そ れを高めるためのしかけを計画し、既存建築(または建築群・町並み)の 改築・増築や、新築をとおして、地域特有の魅力をひきだす建築設計を行う。

1. みる 講師からの事例紹介、各自の対象地及び地域資源を検索 2. さがす 地域のいいところ探し、地域資源を知る、既存建築・建築群・ 町並みをスケッチし、計画提案の検討材料とする

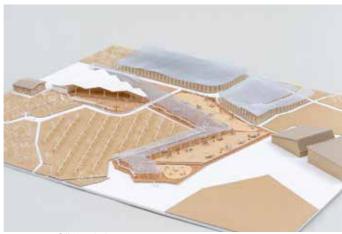
3. かんがえる 地域の現況をまとめ、課題を整理する、プログラム、提 案を検討する、地域計画、建築的提案

4. つたえる スケッチ、ダイアグラム、図面等様々な表現により計画内容を伝える 対象地域(市町村、区域、商店街等)の選定方法

1. 自分の故郷など慣れ親しんだ地域 2. 現在住んでいる地域 3. 課題 出題者が提供する地域



今川 潮乃「Dashi-Dashi 山車だし」



水上 さゆな「散策×朝市



田仲 勇介「地域資源を活用して人やペットの憩いの場を提供する」

高橋スタジオ

「外包建築」

「○○を内包する建築」という言葉をしばしば目にする。建築も何を内 包するかで生まれる目新しさを競うゲームのようで、今建築とされるも のがなんなのか、とても不明瞭な気がしてならない。建築がいろいろな ことを取り込んで「内包」してそのバリエーションを増やす消費的な態 勢を見直し、一度そこから切り離れて単純に新しい建築は何か、につい てみんなで考えてみたい。そこで今まだ日本語にはない言葉、「外包」 について考えてみる。

「外包」の論理が当てはまる場所を都内を中心とした特定の場所で念密 な設計をしなさい。

条件

設計する規模は100㎡以上

個人住宅の敷地内のような閉じた環境で設計しないこと

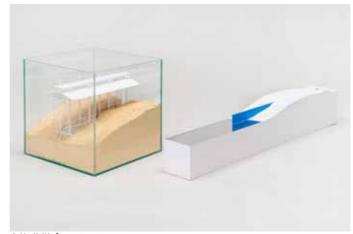
インスタレーションにならないよう、周辺のプログラムとの関係を明確にすること



武田 成子「高架下の日常」



伊藤 紀慧「てらす広場」



高嶋 佳樹「fragile landscape」

布施スタジオ

「○○」が決める建築-建築のストーリーを考える

例年、「○○が決める建築」というテーマを出題してきた。今年はその ○○のところに、自らが言葉を当てはめてみること。ある意味では、建築 のタイトルのようなものと考えても良いかもしれない。自らの興味、研 究との関連性などから導いても良い。○○を考えることは、建築にストー リーを与えることに他ならない。建築には、その建築自身の素晴らしさに 加えて、ストーリーが必要である。建築の用途、建築の敷地、建築の形、 建築の構法・・・ ストーリーとはそれら全てを繋ぐ一連の流れの様なも のである。建築を見つめながら、そのまわりにあるものや背景も同時に考 えること。ストーリーを組み立てることは、建築をより強固なものにする。 建築の意味を高め、建築のデザインの源になることもある。そして何よ り、誰かにその建築を伝えるときに大きな役割を果たす。この課題では、 建築を丁寧に考え、設計の内容、質、密度を高めることを大切にしている。 その上で、敷地選びから、用途や規模の設定、役割や効果など、一貫した 流れを考え、トータルで表現することを目指してもらいたい。



吉田 卓「想起と反芻」



妹尾 毬乃「重なりが決める建築



今井 優希「居場所が決める建築」

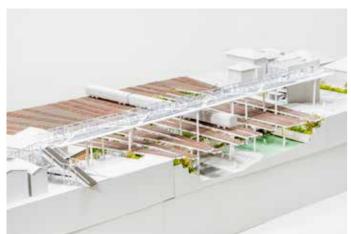
小西スタジオ

電車庫跨線橋の再生計画

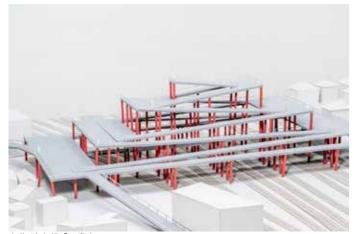
JR 中央線三鷹駅と武蔵境駅の間に位置する三鷹車両センターには、全長約 90m の跨線橋が架けれらている。太宰治は、この跨線橋を気に入って度々 訪れていたと記録されており、現在でも周辺の人々の散歩道として親しまれ ている。しかし、この跨線橋は築造から90年を超えて老朽化し、全面保存 は難しいとの立場から全面撤去とする可能性が高いと言われている。完全撤 去されてしまうと、歩行者の往来の確保という役割が損なわれるだけでなく、 周辺住民に愛された風景も損なわれることとなる。次々と取り壊されて行く ことが予想されるこの社会状況をふまえて、どうしたらこの三鷹電車庫跨線 橋を再生出来るかを考えなさい。現在ある跨線橋の構造体の一部または全部 を再利用して提案してもよいし、全面撤去後に新しく架けられるものとして 提案しても構わない。ただし、交通インフラとしての機能のほかに、何か新 しい機能や用途を与えること。橋を交通インフラとしてだけ考えるのではな く、建築的な機能や用途を持たせることで、次の世代につないでいくことが 出来るような付加価値を新しく再生する跨線橋に与えなさい。



海江田 篤「虹架橋」



古川 隼也「線路下の公園」



安藤 遼太郎「三鷹山」

菊地スタジオ

石を学び、石から建築を考える

普段目にする石から建築を考える。石のどの要素を用いるか。色、硬さ、 重さ、模様、冷たさ、成分、成り立ちなど。

石の持つ特徴をどのように抽出し、捉え、解釈し、空間や造形に表現す るかを検討する。

石の解釈を元に、具体的な用途と敷地を各自設定しなさい。 そしてそれら3者がしっかりと結びついた建築を提案すること。 用途は石の解釈から導いたものなら何でも良いが東屋、ベンチなどでは なく建築物であること。規模は 200㎡以上程度とすること。 敷地は石の扱い方と用途にふさわしい場所を選定すること。



荒明 一眞「in a vail」



篠原 聞杜「IGNITE」



高谷 竜太「石の湯処

長谷川スタジオ

はじまりの2拠点居住

場所:軽井沢 浅間山の山麓

いうまでもなく、建築は風景の中に存在している。その意味では建築の配置計画 はまさにランドスケープデザインなのである。今まで急にそこまでやってもらう のは難しいかと思い、入門としてなるべく建築のない課題を出してきた。が、未 だ多くの学生(プロも)がランドスケープは建築の外側の緑色やうねった地面の ことを指しているという勘違いをしているし、せっかく建築学科で教えているの だから今回は建築の配置も含めて敷地全体をデザインしてもらうことにした。た だ建築を置くだけでなく、膨大な他の要素との関係を作り出して魅力的な場所そ のものを出現させます。今年は自然豊かな土地で人の居場所を考える課題とした。 世界中がコロナ禍に包まれる中、リモートによる仕事や学習の仕方などの多様化 により、都市を離れて自然の中に暮らすことが現実的な選択肢となった。都市を 離れれば人の密度は減るが、その分、人の手が入る前の大地、水の流れ、そこで 生息地とする沢山の動植物など、膨大な他者の存在がある。それらとともに、こ の場所だけが提供できる2拠点居住のあり方、滞在、暮らし方を考えていく。







大月 菜子「水のリボン」

土屋スタジオ

森と大学にみるポリフォニーとマンダラ

森に行きましょう。そこに響き合う、幾つものの論理、幾つもの旋律に、耳を澄 ませ目を凝らしてみましょう。例えば、羽ばたいてきた鳥が枝に留まり、その枝 を風が揺らし、差し込む陽光とその枝によって創られた陰には網目が貼り巡らさ れ、そのネットに引っかかっている雨の雫と虫を求めて蜘蛛が顔をだし、その蜘 蛛は鳥の羽ばたきによって地上へと落ちるかもしれない。それら全体を一つの仮 枠で捉えれば、異なるもの同志が離れたり繋がることで奏でられる、森としての ポリフォニーをみてとれるだろう。また、それら個々の内側へと進めば、そこに は更に複雑で多様なマンダラ的宇宙をみることもできる。土を手にとれば、そこ に土という存在はなく、無数の鉱物、有機物、気体、液体、生物などが同時に共 存しているのである。森から大学に戻ってきて、改めて、耳を澄ませ目を凝らし てみましょう。そこに広がっているのは、まさに森に見出したポリフォニーであ り、マンダラ的宇宙ともとれないだろうか。無数の主体がその内側に無限を抱え ながら、それぞれが異なる表現、異なるトポロジー、異なる論理として実現され、 それらは時に繋がり、時に離れながら響きあっているのだ。







カン ジヨン・岩崎 花恋・宇田川 未森・神崎 優・熊谷 光織シ ウテキ・セン セイブン 根本 賢・山本 莉花子「気配の連鎖」

卒業制作 金賞・優秀賞(学校賞)

都市と村落における環境のシュルレアリスム

高嶋 佳樹|布施スタジオ|建築設計

都市と村落、ふたつの敷地を往復するようにひとつの建築を設計する。 環境から発生した建築要素を観察し、半自動記述的に立ち上がる文脈から都市と村落を探る。

表現欲求のままに建築の力を盲信し、風景を消費する感情的な造形行為ではなく、非感情的に、建築を都市と村落の環境を比較する為の指標のように扱う。

環境や与条件からのみ設計を行い、学際的に都市と村落を比較する。新 しい風景への渇望の机上の空論である。





銀賞

しあわせ運べるように

古川 隼也|持田スタジオ|建築設計

27年前、神戸は阪神淡路大震災に伴う医療崩壊により「未治療死」が相次いだ。それから 25年経ち世界中では新型ウイルスが医療崩壊をもたらし、日本では複合災害となる危険性が顕在化しただろう。

そこで、再開発が進む神戸の造船所を母港として日本列島全体をカバー できる病院船を計画した。

年間 100 隻廃棄されている商船をコンバージョンし、15 年ごとに式年 遷宮のように新陳代謝を続ける新しい病院船の在り方を提案する。







卒業制作 銅賞・優秀賞(学校賞)

梨畑幼稚園

今井 優希 | 布施スタジオ | 建築設計

子どもの頃の体験をふと思い出すことがある。今も体のどこかで覚えている、幼少期の記憶は、日々の生活に感動や彩りを与えてくれているのではないか。

地元鳥取の梨畑の中で過ごした体験が強く残っている。この場所に、環境としての新たな幼稚園を提案する。

成長し変化していく、梨畑と子どもを建築が受け入れ、一日を一年を繋いでいく。ここで育つ子どもたちの小さな体験や感覚が、温もりを持ったものになることを期待している。







優秀賞(学校賞)・奨励賞

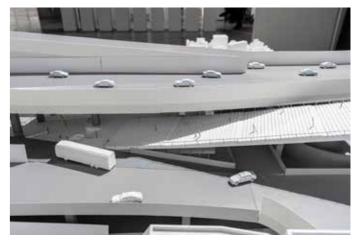
触媒

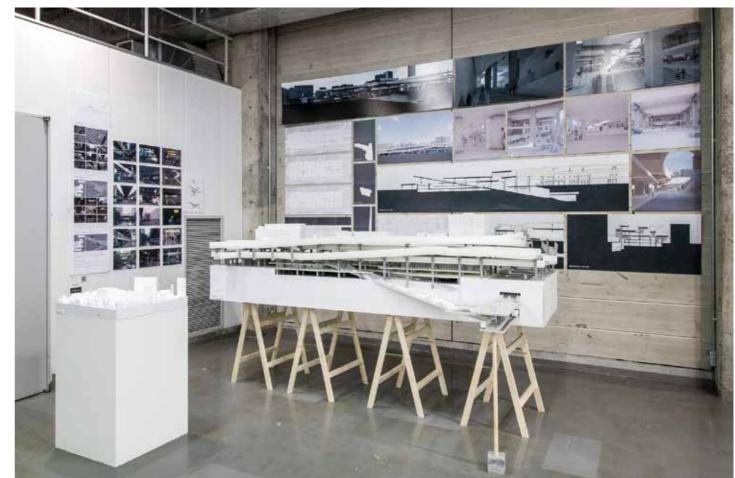
鈴木 正義 | 布施スタジオ | 建築設計

都市には過密により様々な要素が緊密な隣接性を伴いながら存在している。しかしながら、それらの要素が「隣接しているだけ」であり、要素間の関係が希薄であることによって、都市に混沌とした環境が生まれてしまっている。今回の敷地である箱崎もまた、その一例である。

そこで、私はそこに一つの大階段を挿入した。既存の地下鉄駅とバスターミナルを合理的に繋ぐそれは、箱崎の多重する要素と人々のアクティビティを露わにしつつ、それらとの交点を作り出す。これによって、既存の都市構造を変異させ、新たな都市環境と都市体験を提案した。







卒業制作 優秀賞(学校賞)・奨励賞

山に種まき、根を伸ばす

高谷 竜太 | 菊地スタジオ | 建築設計

建築は時に、文化の拠点として存在します。その特性は人工物のない山においてはより色濃くなります。山小屋建築はその代表的な存在です。山小屋は登山者への寝床・食事の提供のみならず、登山道整備や遭難者の救助などの安心安全な登山環境に欠かすことのできない公益業務を担っています。この計画ではその登山文化の肝である山小屋建築の衰退を受け、この先山小屋はどういった場になり、どう周辺の環境と関係すべきかを東京・雲取山を舞台に考えます。







卒業制作 優秀賞(学校賞)

他者が絡み合う暮らし

河島 有理|持田スタジオ|建築設計

「プライベート性」とは住宅を構成する重要な要素であるが、外界との接触を断つことのみがそれを確保する操作ではなく、むしろ「他者」の存在を感じてこそ成立するものだと考える。特に、人口の集中している都市においては周りに溢れる人の気配を遮断しながら暮らすことは豊かな生活につながらないのではないだろうか。

本設計では他者の気配を暮らしの中に引き込むことで、豊かな孤独やささやかな交流を楽しめる住まいを提案する。



奨励賞

葡萄畑を開く

半田 心 | 長谷川スタジオ | ランドスケープ設計

山梨県笛吹市の産業を支えてきた葡萄畑が、近年、高齢化や後継者不足によって減少している。しかし、葡萄畑は、産業としての価値だけではなく、風景としての価値を持っており、特に葡萄畑の中は人の居場所になり得る魅力的な空間である。そのような価値ある葡萄畑を維持する為に、生産拠点としてだけではない、風景を活かした施設を設けた「観光農園」を計画する。



奨励賞

上(のぼる)

神崎 優|土屋スタジオ|インスタレーション

武蔵野美術大学の敷地には、正門から奥にかけて 3m 以上の高低差が存在している。普段意識しないうちにゆるやかに上らされているこの高低差を意識させることが制作の動機である。

1号館の中央階段に住宅や家具などの身近なスケールを持ち込み、そこに存在する高低差を実感しやすくした。



大学院 修了制作 優秀賞

玉野市民会館計画 2022

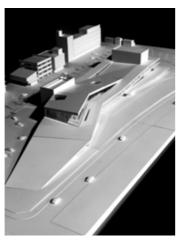
大関 龍一|布施スタジオ|建築設計

地方自治体の公共施設は老朽化や財政悪化により統廃合が行われ、経費 削減の標的となっている。しかし市民活動の場は地域住民の基盤を作 り、その街に住む価値を生むのではないだろうか。

本計画では、私が4年前から関わりを持つ岡山県玉野市宇野港を敷地とし、新たな市民会館の設計提案を行った。音楽ホール、ホワイエ、展示室、マルシェ、レストランは、海が見えるスロープ導線で囲われ、市民や瀬戸内国際芸術祭へ訪れる観光客が内部空間の活動を介し新たな関係性を生む場所となる。









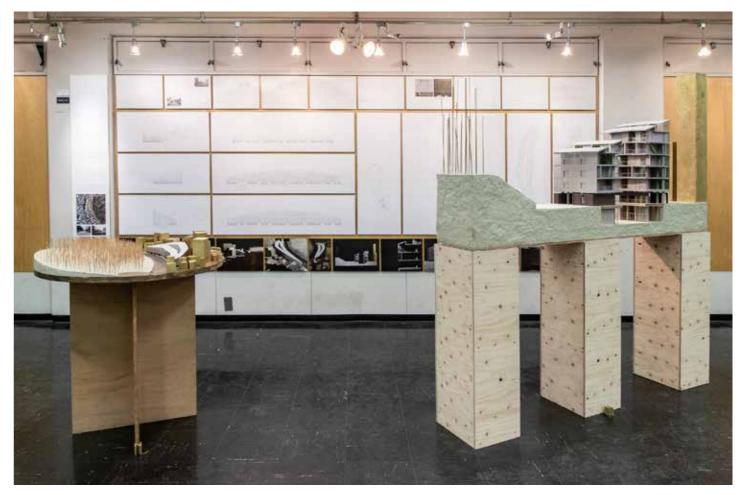
大学院 修了制作 優秀賞

YYG project

大嶋 笙平|布施スタジオ|建築設計

建築の本質とは何か?という問いに対し、私はここ最近、建築の「建ち方」こそがその本質ではないかと考える。そこにあって「しっくりくる形」というのは非常に感覚的な言葉だが、しかしある種の建築の到達目標の一つではないだろうか。

ここではある特定の文脈や要請、制限を特権化せずそれらを等価に扱い、他者から抽出した線の選択をひたすら繰り返すことで、自律的な建築の建ち方のありようを探る。







カリキュラムの一環として社会連携による設計課題を設けることや、課外活動にて積極的な企画参加をしています。

建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティ づくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランド スケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。

また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流 プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取 り組んでいます。

■ 2010 年度以降の学外プロジェクト

愛知県額田天使の森アートプロジェクト / 茨城県旧八郷地区・アート サイト八郷 / 太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ / 神楽坂プロ ジェクト/笠間の菊まつりプロジェクト/鎌倉御成町プロジェクト/近 代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト / 高知県佐川町プロジェクト / JR 中央ラインモール計画 / 瀬戸内・女木島プロジェクト / 常盤平アー トセンタープロジェクト / 徳島県勝浦川環境アートプロジェクト / 松戸 アートラインプロジェクト / 横浜黄金町再生プロジェクト / ららぽーと 立飛スペースデザインプロジェクト / 陸前高田市今泉地区移転計画プロ ジェクト / 横瀬町プロジェクト / 小平市連携プロジェクト「公共空間と 公共施設から考える小平未来のまちとくらし」

■ 2010 年度以降の国際交流プロジェクト

「すき間」から考える新しい住まい方 (デンマーク王立芸術アカデミー 建築学部)/チェルシー・キャンパス・プロジェクト(ロンドン芸術大 学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン) / 地下探 訪一都市形成の変遷とカタフィル文化の考察 (パリ国立高等美術学校)/ 訪問教授フィリップ・ベヌカン (フランス)/ 訪問教授ハッリ・コスキ ネン (フィンランド) 「Light Matters」/ 訪問教授ソフィー・クレール (オ ランダ)「Field Essays Workshop "matter that matters"」/訪問教授エ ンリック・マシップ (スペイン)「ラーバン」





「武甲山の見える高台に作る素敵な場所の提案」官学連携プロジェクト(横瀬町)



「集積あるいは変化するストラクチュラル・アート」 学生サマーセミナー(日本建築学会)





-「影絵ワークショップ」紅葉とたてもののライトアップ (江戸東京たてもの園



「絵ほんかわごえ」(NPO 法人川越蔵の会)

施設紹介

鷹の台キャンパス・8号館3階が、建築学科の専門科目を学ぶメインフロアになります。



建築学科研究室|教員の個人研究室が集約、建築学科の各種窓口となります





建築学科専門科目の講義のほか、



ゼミ室 | 4年生は所属するスタジオごとに制作を行います



展示スペース|普段はフリースペースですが、作品の展示・講評も行われます



撮影スタジオ|課題で制作した作品の撮影を行うことが出来ます





工房加工室 | パネルソーやスライド丸ノコ等の加工機械を使用して作業が出来ます



小西 泰孝 主任教授 小西泰孝建築構造設計 主宰

www.konishi-se.jp/ksl/

1970 年千葉県生まれ。95 年東北工業大学工学部建築学科卒業。97 年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。97 年佐々木睦朗構造計画研究所入社。2002 年小西泰孝建築構造設計設立。17 年~武蔵野美術大学教授。主な作品(構造)に「神奈川工科大学 KAIT 工房(石上純也、2009 年日本建築学会賞、第3回日本構造デザイン賞)」、「上州富岡駅(TNA、2014 年日本建築学会賞)」、「立川市立第一小学校(シーラカンスアンドアソシエイツ)」、「中国美術学院民芸博物館(隈研吾)」など。

―専門分野・研究テーマ

構造デザイン、構造設計、構造力学。建築を主とし、その他、工作物、橋梁、什器、インスタレーションなどを含んだ、様々な規模・用途に対する構造デザインの研究。

―小西スタジオのテーマ

「構造」には、地震、暴風、積雪などの自然災害力に対する防御だけではなく、建築・環境のデザインや機能をより高めることができる力があります。 建築と「構造」の融合を高い水準で図り、 建築をより美しく、 より豊かに、 より安全にすることで、 地域・社会に寄与貢献することを目指します。



高橋 晶子 教授 建築家 / ワークステーション 共同主宰

takahashistudio.tumblr.com www.facebook.com/ 武蔵野美術大学 - 高橋スタジオ -616957391733124

1958 年静岡県生まれ。80 年京都大学卒業。82 年東京工業大学大学院修士課程修了。86 年博士後期課程中退。86 ~ 88 年篠原一男アトリエ。88 年高橋寛とワークステーション設立。2004 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品に「高知県立坂本龍馬記念館」(JIA 新人賞他)、「アパートメンツ東雲キャナルコート」(BCS 賞他)、「芦北町交流センター」(日本建築学会作品選奨他)。著書に『パブリック空間の本』(彰国社)。

―専門分野・研究テーマ

建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

―高橋スタジオのテーマ

無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。



菊地 宏 教授 建築家 / 菊地宏建築設計事務所 代表

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio

1972 年東京都生まれ。98 年東京理科大学大学院修士課程修了。妹島和世建築設計事務所 (SANAA)、Herzog & de Meuron (スイス・バーゼル)を経て、2004年菊地宏建築設計事務所を設立。10年~武蔵野美術大学准教授。18年~同教授。主な作品に「南洋堂改修」、「大泉の家」(住宅建築賞)、「畑の見える家」などがある。著書に『菊地宏 | バッソコンティヌオー空間を支配する旋律』(2013年、LIXIL 出版)。

―専門分野・研究テーマ

建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

―菊地スタジオのテーマ

建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。



鈴木 明 教授

www.facebook.com/akirasuzukistudio

1953年東京都生まれ。77年武蔵野美術大学建築学科卒業。79年同大学院修士課程修了。新建築社編集部勤務を経て、86年建築都市ワークショップ設立。2000~14年神戸芸術工科大学(01年~教授)。14年~武蔵野美術大学教授。主な作品に「建築教室」(ワークショップ)、「せんだいメディアテーク」「多摩美大図書館」インタラクションデザイン(設計=伊東豊雄)。著作・研究に『つくる図書館をつくる』(鹿島出版会)、「ル・コルビュジエ・モデュロールの身体図像研究」。

―専門分野・研究テーマ

建築デザイン、建築計画、建築論、インタラクションデザイン。社会的な活動としてワークショップによるまちづくり、建築批評や建築展(企画運営)。研究課題として「セルフビルド建築研究」「ル・コルビュジエの身体図像に関する研究」など。

一鈴木スタジオのテーマ

3年生は、地域と環境に根ざした公共施設・公共空間を設計する。4年生は、まちや地域の捉え方、活性化の方法論を学び、建築の提案につなげていきます。卒業研究(論文と制作)は地域・特定の地区や街並みを調査して文化や暮らしを活性化する計画を行う。また各自が関心を持つ個別の研究を進めます。



布施 茂 _{教授}

fuse-studio-musabi.com www.facebook.com/fuse.s.mau www.instagram.com/fuse studio musabi

1960年千葉県生まれ。84年武蔵野美術大学建築学科卒業。84年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85年 - 第一工房、95年同設計部長。2003年 fuse-atelier 設立。04年 - 武蔵野美術大学助教授。06年 - 同教授。主な作品に「全労済情報センター」(第一工房)、「群馬県立館林美術館」(第一工房)、「House in TATEYAMA」、「House in ABIKO」、「House in TSUTSUMINO」、「House in TSUDANUMA」、「House in KANNOU」、「House in JYOUSUI-SHINMACHI」など。

―専門分野・研究テーマ

建築設計。建築におけるシークエンス、空間の分節、プロポーション、素材、 ディテールの探求。

一布施スタジオのテーマ

建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探求します。



持田 正憲 教授

MOCHIDA 建築設備設計事務所 代表

www.facebook.com/mochidastudio/ www.instagram.com/mmochida_musabi/ twitter.com/mochidastudio

1972 年神奈川県生まれ。96 年 工学院大学工学部建築学科卒業。設備設計事務所、組織設計事務所での設備設計実務を経て、18 年 MOCHIDA 建築設備設計事務所を設立。21 年~武蔵野美術大学教授。主な作品に「ROGIC -ROKI Global Innovation Center-」(小堀哲夫建築設計事務所、日本建築学会賞・JIA 日本建築大賞・BCS賞)、「山形エコハウス」(羽田設計事務所・東北芸術工科大学)。著書に『ビル管理技術者のための設備のしくみがわかる本』(共著 オーム社)など。

-専門分野・研究テーマ

建築設備設計、建築環境デザイン、建築環境工学。建築と環境・設備の融合、建築と自然の共存、建築と人間の新しい環境。

- 持田スタジオのテーマ

環境・設備的な観点からの調査・分析やさまざまな体験・体感を通して、建築環境デザインを議論し、これからの地球環境時代に対する新たな答えを探ります。



長谷川 浩己 特任教授 オンサイト計画設計事務所 パートナー

musabi-landscape.net
www.facebook.com/musabi.landscape.hasegawa

1958 年千葉県生まれ。千葉大学を経て、オレゴン大学大学院修士課程修了。 2009 年~武蔵野美術大学特任教授。「横浜ポートサイド公園」、「館林美術館 / 多々 良沼公園」、「丸の内オアゾ」、「東雲 CODAN」、「星のや軽井沢」、「ハルニレテラス」、 「日本橋コレドの広場」などで、グッドデザイン賞、造園学会賞、土木学会デザ イン賞 (最優秀賞)、AACA 芦原義信賞、ARCASIA GOLD MEDAL、アーバンデザ

イン賞などを受賞。共著に『つくること、つくらないこと』(学芸出版社)など。

―専門分野・研究テーマ

ランドスケープ・アーキテクチュア。実務をともない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

―長谷川スタジオのテーマ

自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いので、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。



永山 祐子 _{客員教授} 建築家 / 永山祐子建築設計 主宰

www.yukonagayama.co.jp/ ※スタジオは開設していません

1975 年東京生まれ。1998 年昭和女子大学生活美学科卒業。1998 年青木淳建築計画事務所勤務。2002 年永山祐子建築設計設立。主な仕事、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」「丘のある家」「豊島横尾館」「女神の森セントラルガーデン」「ドバイ国際博覧会日本館」など。JIA 新人賞 (2014)、山梨県建築文化賞、東京建築賞優秀賞 (2018)、照明学会照明デザイン賞最優秀賞 (2021) など。現在、東急歌舞伎町タワー (2023)、東京駅前常盤橋プロジェクト「TOKYO TORCH」などの計画が進行中。

―専門分野・研究テーマ

建築設計、人と環境・人と人が繋がるきっかけとなるデザイン

―学生に期待すること・メッセージ

河内 孝夫(建築設備・実験 ||)

川嶋 貫介(設計計画Ⅳ)

私は建築に携わることで色々な世界に触れ、社会の仕組みを知ることができました。 今後どんな方向に進もうと役立っていくと思います。



小松 宏誠 特任准教授

アーティスト ※ 2022 年度より着任

1981年徳島県生まれ。2004年に武蔵野美術大学建築学科卒業、2006年に東京藝術大学大学院修了後、アーティストグループ「アトリエオモヤ」のメンバーとして、自然の物理現象に着目した作品制作を開始。2014年に独立。「浮遊」や「鳥」への興味からはじまり、現在では「軽さ」「動き」「光」に着目した作品を展開中。美術館での作品展示をはじめ、商業施設など大空間での空間演出も行う。

―専門分野・研究テーマ

建築美術、環境造形、空間表現。実践的な活動を通し、建築と美術の領域から 生まれる総合的表現を探究します。

一小松スタジオのテーマ

建築と美術の領域からはじまり、幅広い想像力と関係性で、社会における新たな価値・役割を発見し生き抜くクリエイターを育てたいと考えています。



アストリッド・クライン _{客員教授} 建築家 / クライン ダイサム アーキテクツ 共同主宰

※スタジオは開設していません

1962 年イタリア生まれ。86 年エコール・ド・アール・デコラティーフ卒業。88 年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修了。88 年~伊東豊雄建築設計事務所を経て、91 年マーク・ダイサムと共同でクライン ダイサム アーキテクツを設立。2009 年~武蔵野美術大学客員教授。主な作品に「DAIKANYAMA T-SITE」、「相馬こどものみんなの家」、「GINZA PLACE」、「OPEN HOUSE Central Embassy」ほか国内外で様々なプロジェクトを手がける。D&AD Awards、WAF Awards、DFA Awards など受賞多数。

一専門分野・研究テーマ 建築設計、インテリアデザイン。

一学生に期待すること・メッセージ

見た人が建築に憧れを抱くような、行きたくなる、そこに居たくなる素敵な建築 を作ってほしい。

講師

青木 弘司(設計計画 Ⅲ-2) 川村 政治(建築設備特論) 石井 秀幸(設計計画 Ⅲ-2) 河野 有悟(建築設計基礎) 伊藤 裕久(都市デザインB) 後藤 武 (建築意匠 B) 伊藤 友紀(建築設計表現) 小林 敦(建築設計基礎) 今村 水紀(設計計画Ⅱ-2) 後藤 武 (建築意匠 B) 岩下 泰三(図学) 阪 健吉 (建築材料学・実験 1) 上田 明宏(建築施工 | / ||) 佐藤 千佳(建築法規 | / ||) 上田 宏(写真表現) 三幣 順一(設計計画 Ⅲ-2) 植田 美佳 (基礎数学) 渋江 桂子(環境生態学特論) 大野 暁彦 (ランドスケープデザイン近代史) 杉山 経子 (建築材料学・実験 ||) 大森 晃彦 (写真表現) 鈴木 竜太(設計計画 I-1 / I-2) 奥野 公章(設計計画 Ⅲ-2) 髙沖 哉 (環境計画 b) 奥村 誠一(建築構法、建築構法特論) 田口 明美 (建築設備・実験Ⅱ) 小倉 康正(告形総合・デザインⅡ) 田邊 寛子(都市デザインA) 笠置 秀紀(建築設計表現) 田原 唯之(設計計画 IV) 加藤 修 (環境牛熊学 | / ||) 田宮 晃志 (設計計画 II -2) 金田 未来(設計計画Ⅱ-1) 常山 未央(設計計画 Ⅲ-2) 狩野 佑真(設計計画Ⅲ-1) 戸井田 雄(造形演習) 亀山 本果 (環境計画 b) 中川 純一(設計計画Ⅳ)

中村 幸悦(横浩力学1)

中村 文美(設計計画 Ⅳ)

研究室スタッフ

大関 龍一

木村 幸伸

齊藤 啓輔

棚橋 玄

三ツ井 岳

28

※教員紹介は、2022年度の在職状況を記載しています。

山家 明(設計計画Ⅱ-1)

山村 尚子(設計計画 || -1)

山本 大介(設計計画 || -2)

山田 陽平(設計計画I-1/I-2)



大林組設計本部 設計部長



大正大学図書館 (2021年 グッドデザイン賞、iF Design Gold Award 受賞

- 一現在のお什事について
- あらゆるタイプの建築物を設計する大きな組織の中で、教育施設やリノベーシ ョンを手掛けています。
- ―ムサビで学んだこと
- 他分野との刺激的な交流を通じ、自然と幅広い視野で建築を考えるようになり ました。



大堀 伸 ジェネラルデザイン 代表



nokitazawa」(2021年

- 一現在のお什事について
- 商業施設や個人住宅の建築設計から、ショップや飲食店のインテリアデザイン などをしています。
- ものをつくる様々な分野の友人との対話、つながりの大切さ。



小塙 香 KOBFUJI Architects 共同主宰



「スマラガ郷+資料館」(2014年)

- 一現在のお仕事について
- スペインを拠点に建築やランドスケープを通して、百年以上前の建物や自然と いう圧倒的魅力を既に持つ対象を守り次へ繋げることを考えながら設計活動を しています。
- ームサビで学んだこと
- 分野を超えた授業内容により、音楽、デザイン、アート、美術史等、多方面か ら建築へアプローチすることの楽しさを学びました。



鈴木 莉紗 日本放送協会 デザインセンター 映像デザイン部 デザイナー



第 71 回 NHK 紅白歌合戦」

- ―現在のお仕事について
- 美術セットや CG、グラフィックのアートディレクションを行いながら、 番組のビジュアル全般を担当しています
- --ムサビで学んだこと
- 先生や仲間との刺激的な交流から、
- モノを生み出す情熱や、挑戦する楽しさを教わりました。



小坂 竜 乃村工藝社 商環境 事業本部 A.N.D. クリエイティブディレクター



「The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu」京都(2020 年)

- ―現在のお什事について
- 大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レ ストラン・レジデンスなどのデザインをしています。
- ―ムサビで学んだこと
- 色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しさ を経験することができました。



大島 芳彦 株式会社ブルースタジオ **車務取締役** クリエイティブディレクター



令和3年度土地活用モデル大賞「審査委員長賞」受賞

- 一現在のお什事について
- ブルースタジオは「まちの使いこなし方をデザインする会社」。建物のデザイン にとどまらずマーケティング、事業企画、マネジメント、プロモーションに 至るまで、社会環境を総合的にデザインしています。
- —ムサビで学んだこと
- 人と同じことより違うことが価値とされる校風。多様な感性をもつ仲間との交 流、対話が自らの感性を磨いてくれました。



CASE DESIGN STUDIO 代表

横田 典雄



「軽井沢矢ケ崎の家」(2016年)

- 一現在のお仕事について
- 主に住宅や別荘などを設計。どのような用途になっても成立する空間性を獲得 するように意識し、バランスがとれた建築を目指しています。
- ハサビで学んだこと
- 様々な分野の人々から、理屈ではない美しさや力強い自由など、自分に足りな いものを感じることができました。



池川健太 (株)博報堂 クリエイター / プランナー



Google Chromebook プロモーション (2019年~)

- ―現在のお仕事について
- Google Chromebook、日本コカ・コーラ 綾鷹、メルカリ、Amazon など多く のグローバルブランドや先端IoT家電などの事業開発から広告設計まで担当。 ―ムサビで学んだこと
- 建築的な思考は、建築だけではなくあらゆる領域に活かせる事が出来ます。 制作だけに没頭できる環境があった事に今ではとても感謝しています。

主な就職先

■アトリエ系建築設計事務所

芦原太郎建築事務所、APOLLO Architects & Associates、アンドウ・アトリエ、 伊坂デザイン工房、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畝森 泰行建築設計事務所、O.F.D.A、小川晋一都市建築設計事務所、オンデザインパー トナーズ カスヤアーキテクツオフィス 城戸崎建築研究室 隈研吾建築都市 設計事務所、コンテンポラリーズ、佐久間徹設計事務所、SALHAUS、SANAA、 スキーマ建築計画、スタジオプラナ建築設計事務所、團紀彦建築設計事務所、 手塚建築研究所、永山祐子建築設計、NAP 建築設計事務所、成瀬・猪熊建築 設計事務所、能作淳平建築設計事務所、袴田喜夫建築設計室、彦根建築設計事 務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細矢仁建築設計事務所、槇総合計画事務 所、増田信吾 + 大坪克亘、光井純 & アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラ ムスタジオ、矢萩喜從郎建築計画、山本理顕設計工場、横内敏人建築設計事務 所、ヨコミゾマコト建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ワークステー ション、若松均建築設計事務所、403architecture[dajiba]

■組織設計事務所

あい設計、相和技術研究所、池下設計、伊藤喜三郎建築研究所、梅沢設計、日 建設計、日本設計、日本建築構造センター、バックグランド、プランテック総 合計画事務所、三輪設計事務所、UDS、類設計室

■建設会社

青木あすなろ建設、大林組、小川建設、鹿島建設、鴻池組、清水建設、大成建 設、JR 東日本、JR 東日本都市開発、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、 高松建設、竹中工務店、戸田建設、フジタ、平成建設、森ビル、ヤマウラ

■住宅メーカー

アキュラホーム、飯田産業、エス・バイ・エル、オープンハウス・アーキテクト、 スウェーデンハウス、住友林業、積水ハウス、大和ハウス工業、タマホーム、東急ホー ムズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム東京、ニットー住宅、パナホーム、ポ ラスグループ、ミサワホーム、三井ホーム、ヤマネホールディングス、ユウキ建設

■不動産業

エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、サジェスト、JR 東日本ビルディング、 大東建託、東京建物、日神不動産、野村不動産パートナーズ、三井不動産リア ルティ、三菱地所プロパティマネジメント

■ランドスケープデザイン

オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ・アソシエイツ、ランドスケー プデザイン、ランドブレイン

■インテリア・ディスプレイ

イニシャルジャパン、イリア、インテンショナリーズ、ウエル・ユーカン、エ イムクリエイツ、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、 コクヨ、コトブキ、ジーク、GK デザイン、ジールアソシエイツ、昭栄美術、スペー ス、船場、ソーケン、髙島屋スペースクリエイツ、タカラスペースデザイン、 竹内デザイン、丹青社、ツクルバ、デザインアートセンター、ドラフト、夏水 組、日建スペースデザイン、乃村工藝社、博展、ハコリ、三越伊勢丹プロパティ・ デザイン、ルーヴィス、ワンダーウォール

■ファッション

アズノゥアズ、イッセイミヤケ、エース、オンワード樫山、貴和製作所、ケイ・ ウノ、コムデギャルソン、ベイクルーズ、丸高衣料、リデア

■舞台

劇団四季、シミズオクト、日本ステージ

アサツーディ・ケイ、NHK、光文社、商店建築社、新建築社、新潮社、タツノ コプロ、TCJ、TBS テックス、テレビ朝日、日本テレビアート、フォアキャスト・ コミュニケーションズ、ホビージャパン、マルモ出版

■広告・グラフィックデザイン

アマナホールディングス、電通テック、凸版印刷、ナカサアンドパートナーズ、 博報堂アイ・スタジオ

■官公庁

宮内庁、宮城県庁、昭島市役所、川崎市役所、神戸市役所、調布市役所

NTT データ・ファイナンシャルコア、クレスコ、湘南ゼミナール、TOTO エキ スパート、日大グラビヤ、ニュウファニチャーワークス、日比谷花壇、福武財団、 ベネッセスタイルケア、MAG BY LOUISE、丸井、ムーンスター、無印良品(上海) 商業有限会社、UT コンストラクション・ネットワーク、ルピシア、レクシア

主な進学先・留学先

武蔵野美術大学大学院、東京大学大学院、東京藝術大学大学院、東京工業大 学大学院、東京理科大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、 明治大学大学院、同志社大学大学院、東京都立大学、横浜国立大学大学院、 筑波大学大学院、千葉大学大学院、東北大学大学院、大阪大学大学院、大阪 市立大学大学院、京都芸術大学大学院

AA スクール、オスロ建築デザイン大学、カタルーニャ工科大学、グラスゴー 美術学校、プラットインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン芸術大学

在校生・卒業生の受賞

■ 2021 年

「全国合同卒業設計展 卒、22」優秀賞、クリティーク賞(多田脩二賞): 古川 隼也 「赤れんが卒業設計展 2022」101 選:古川 隼也

「第 31 回 JIA 東京都卒業設計コンクール 2022」工藤賞:古川 隼也

「第 28 回 空間デザイン・コンペティション『野生のガラス』」入選:若杉 陸 「日比谷ランドスケープデザイン展 2022」優秀賞:半田 心

「第13回ハーフェレ学生コンペティション2021」最優秀賞:長谷川ゆい、三原陽莉 「第 44 回学生設計優秀作品展ー建築・都市・環境ー」レモン賞:近藤 直輝

「第 29 回 UBE ビエンナーレ」 実物制作指定作品 15 選:當眞 嗣人、井口 雄介、中村 厚子 入選作品 40 選:近藤洋平

「建築新人戦 2021」優秀新人賞:姶良 壮志、8 選受賞:宮地 凌央 16 選受賞:阿部 朔太、100 選:広瀬 了、奥田 涼太郎、吉村 優里 「SD レビュー 2021」入選: 天野 亮平、西本 光

「日本造園学会全国大会 2021 学生デザインコンペ」入賞:長谷川 ゆい

■ 2020 年

「第20回住宅課題賞2020」優秀賞1等:二又大瑚

「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2020」銅賞: 山田 寛太

「建築新人戦 2020」16 選:大月 菜子、古川 隼也 「仮囲いデザインコンテスト」優秀賞:岩穴口 颯音、一色 淳之介、税所 飛駆

「第 29 回 JIA 東京都卒業設計コンクール 2020」田根賞:山田 寛太

「2021年日本建築学会文化賞」受賞:藤江和子、真壁智治

「大津京マンション設計コンペ」2 等賞: 滝川 寛明

「第62回全国カタログ展 カタログ部門」経済産業大臣賞・金賞:根間 太作

「クリエイティブ・アド」グランプリ:高田 雄大朗

「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2020 公募大賞」グランプリ:上坂 直

「Young Lotus Workshop」日本代表:高田 雄大朗

「第 14 回キッズデザイン賞」受賞:鈴木 竜太、田中 匡美

「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2019」金賞:吉田 葵

「第 28 回 JIA 東京都学生卒業設計コンクール 2019」銀賞:吉田 葵

「第 42 回学生設計優秀作品展(レモン画翠)」レモン賞:矢鋪 礼子

「第 19 回卒業設計コンクール(埼玉建築設計監理協会)」

特別審査員賞:野口新、小泉大季 日建学院賞:南雲雄大 「日比谷ランドスケープデザイン展 2019」優秀賞:若杉 勇 村上賞:倉田 怜伽

「住宅設計コンペティション 鹿児島を楽しむ家」優秀賞:高谷 竜太

「サンゲツ壁紙デザインアワード 2019」奨励賞:河野 亮 「2019 年日本建築学会作品選集」新人賞: 櫻井 建人

「ARCHITECTURE ASIA AWARDS FOR EMERGING ARCHITECTS」受賞:原田 将史

「SD レビュー 2019」入選: 畠山 鉄生、吉野 太基 「JAAA 第 48 回懸賞論文」金賞:池川 健太

「JIA 神奈川デザインアワード 2019」優秀賞: 星野 千絵 「日本空間デザイン賞 2019」金賞:佐々井歩



「日本空間デザイン賞 2019」ショップ空間 金賞「NSK MUSEUM」佐々井 歩 写真:ナカサ&パートナーズ 河野 政人

2023年度 建築学科 入学試験情報

一般選抜 募集 62 名

一般方式

募集 35 名

本学独自の国語・外国語

・専門試験

募集 15 名

①国語 100 占 ②外国語 100点

国語・外国語科目

選択2科目

①国語 / 外国語 / 数学 のうち1科目選択100点 ②選択科目 100 点

共通テスト2教科

+ 専門試験方式

大学入学共通テスト

本学独自の専門試験

共通テスト3教科方式

募集 12 名

大学入学共通テストのみ

必須1+選択2科目

①外国語 100点 ②国語/数学 のうち1科日選択100占 ③選択科目 100 点

総合型選抜(自己推薦)募集10名

■一般方式

(学校長推薦不要・評定平均値指定なし) 自己推薦調書による第一次選考 と、表現カテスト+グループ面接 による第二次選考で、建築学科で 学ぼうとする関心の高さを主眼と して選抜します。

出願に先立って希望者には「事前 面談」を実施します。

■出願可能年齢

2023年4月1日時点で満28歳以下の者

■出願期間

2022年9月16日(金)から 9月26日(月)まで (web 出願後郵送受付·消印有効)

大学院選抜 造形研究科修士課程 デザイン専攻建築コース

■選考方法

①即日設計 / 小論文 (英語含む) のうち 1 科目選択

②プレゼンテーションおよび面接

■提出作品

近作1点 ポートフォリオ (近作3点以上) または論文

専門試験科目

③鉛筆デッサン/数学 どちらか1科目選択 200点

入学試験に関する情報・お問い合わせ

※入学試験概要,募集要項,過去の入試問題など詳細は、本学ウェブサイト「入試情報」よりご確認ください。 武蔵野美術大学 www.musabi.ac.jp

入学センター tel: 042-342-6995 (月 - 土 / 9:00 ~ 16:30)

学部卒業後に取得可能な資格

- · 一級建築士受験資格
- ·二級建築十受験資格
- 木告建築十受験資格
- ・学芸員 (別途、科目履修が必要となります)

※一級建築士の免許登録には2年以上の実務経験が必要となります。

※大学院は建築十試験の大学院における実務経験要件に対応しています。

大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。

詳しくは研究室にお問い合わせください。

※本学科には教職課程は設置されていません。

武蔵野美術大学建築学科 学科紹介 2023

2022年6月1日発行

発行: 武蔵野美術大学建築学科研究室

〒 187-8505 東京都小平市小川町 1-736 tel: 042-342-6067 fax: 042-344-1599

mail: arc@musabi.ac.jp website: www.arc.musabi.ac.jp

facebook: www.facebook.com/arc.musabi

企画編集:建築学科研究室(大関龍一)

デザイン: 入江 剛史

写真撮影:入江 剛史、大関 龍一、建築学科研究室

印刷:株式会社アトミ

表紙作品:高嶋 佳樹 「都市と村落における環境のシュルレアリスム」

(2021年度卒業制作 金賞・優秀賞)

